

令和5年度

防災研修

兵庫県広域防災センター(三木)

三田市消防本部

弥生が丘自治会防災部/弥生が丘自治会自主防災会

兵庫県広域防災センターでは、ウエルカムボードの出迎えを受け、講師の方からの防災講和で、地震に対する心掛けとして、まずは自らができる備えをすることの大切さのお話がありました。「自分の身は自分で守る(自助)＝水や食料の備蓄、家具の固定等」「地震発生時、近隣同士の助け合い(近助)の大切さ等」

その後、参加者全員が、起震車で震度7の地震の揺れの体験、煙避難訓練(真っ暗で目の前が全く見えない部屋を、入り口から出口まで通り抜ける体験)で、実際地震に遭遇した時のシミュレーションをし、地震の怖さと、遭遇時の自らの行動の大切さを改めて知ることができました。煙避難訓練では、子ども3人組がなんと1分20秒で脱出に成功！大喜びでした。担当の職員からお褒めの言葉がありました。参加者27名



煙道体験：煙道の中～何も見えません！

三田市消防本部では、一般には非公開の消防署員の更衣室や119番通報の司令室等の特別見学が出来ました。更衣室では出動要請時、短時間で出動できるよう制服や靴等が整然と保管されていました。その後、最新の機材搭載の消防車や救急車を目の前で見学できました。

(救急車出動のデータ)～消防署員のお話と消防本部公式 HP から

三田市消防本部救急車出動回数(令和5年1～12月) 年間4977件、内軽傷1838件(43.9%)

119番通報～現場までの平均所要時間約9分、現場から医療機関までの平均所要時間約44分

～定期的に健康診断を受け、体調(健康)管理は自らきっちりと実施しましょう

～かかりつけ医(家庭医)を持つようにし体調不良時等、連携を保つようにしましょう

～タクシー代わりの救急車の利用や、いたずら電話は絶対にしないようにしましょう



あの痛ましい「阪神淡路大震災」から30年近くが経過しました。ともすれば当時のことが忘れ去られようとしています。我々の住む西日本では今後30年以内にかなりの確率で「南海・東南海地震」が起きると言われています。地震をはじめ風水害に備え、私たち一人一人が、まずは「自分の身は自分で守る」(自助)の意識を持ち行動すること、又災害発生時は「近隣の住民同士の助け合い」(近助・共助)が被害を最小限に(減災)にとどめることが出来ると確信します。

ちなみに阪神淡路大震災で被災された35,000人の内、近隣住民によって救出された方は、実に27,000人(77%)にのぼります。警察、消防、自衛隊等公的機関に救出された方はわずか8,000人(23%)です。(内閣府の公式データより) この事からも、災害発生時初期の近隣同士の助け合いの大切さがわかります。普段より近隣同士のお付き合いを心がけて下さい。

今回、若い世代や子どもたちも多く参加してくれました。大震災を経験した私たちは、災害に備え何をすべきかを若い世代に確実に伝達していくことの大切さを、今回2か所の施設見学・体験を通して、改めて認識してきました。

弥生が丘自治会防災部/弥生が丘自治会自主防災会